

松本市立病院
基礎調査報告書

平成28年3月

松本市

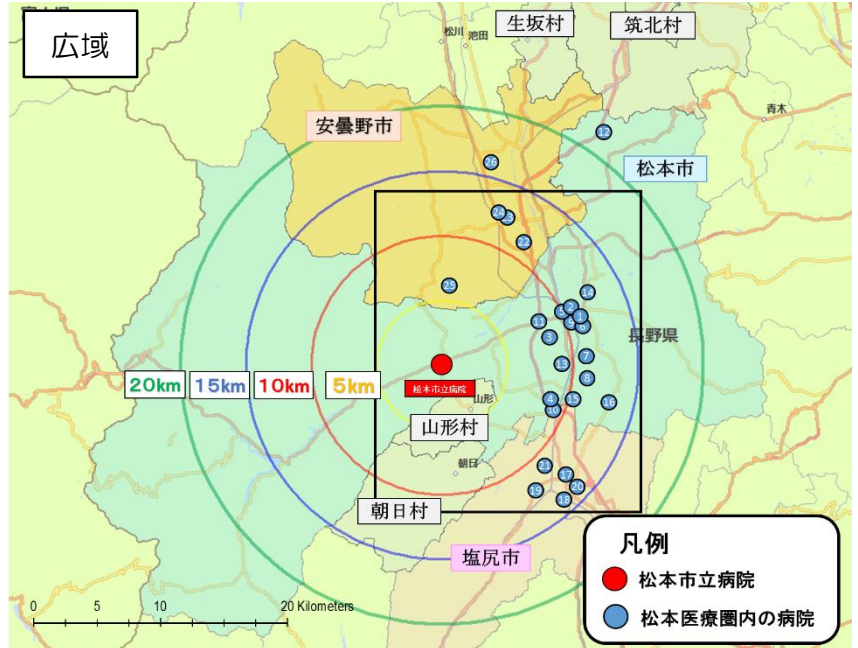
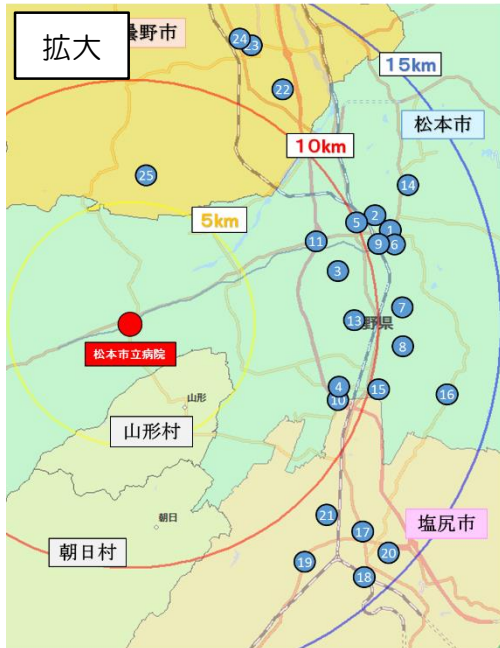
目 次

1 市立病院を取り巻く外部環境	1
(1) 松本二次医療圏における病院設置状況	1
(2) 将来人口推計	3
(3) 将来患者需要予測	4
(4) 松本二次医療圏 DPC 病院疾患比較	6
(5) 救急医療提供の状況	8
2 市立病院を取り巻く内部環境	12
(1) 経営状況	12
(2) 診療圏分析(医事レセプトデータ分析)	16
3 市立病院の強みと課題	18
(1) 市立病院の強み	18
(2) 市立病院の課題	19
4 市立病院整備のあり方に関する将来構想(案)	20
(1) はじめに	20
(2) 病院整備の基本的手法について	20
(3) 基本計画の策定について	21
(4) 基本計画の検討体制について	22
(5) 当面想定されるスケジュール	22

1 市立病院を取り巻く外部環境

(1) 松本二次医療圏における病院設置状況

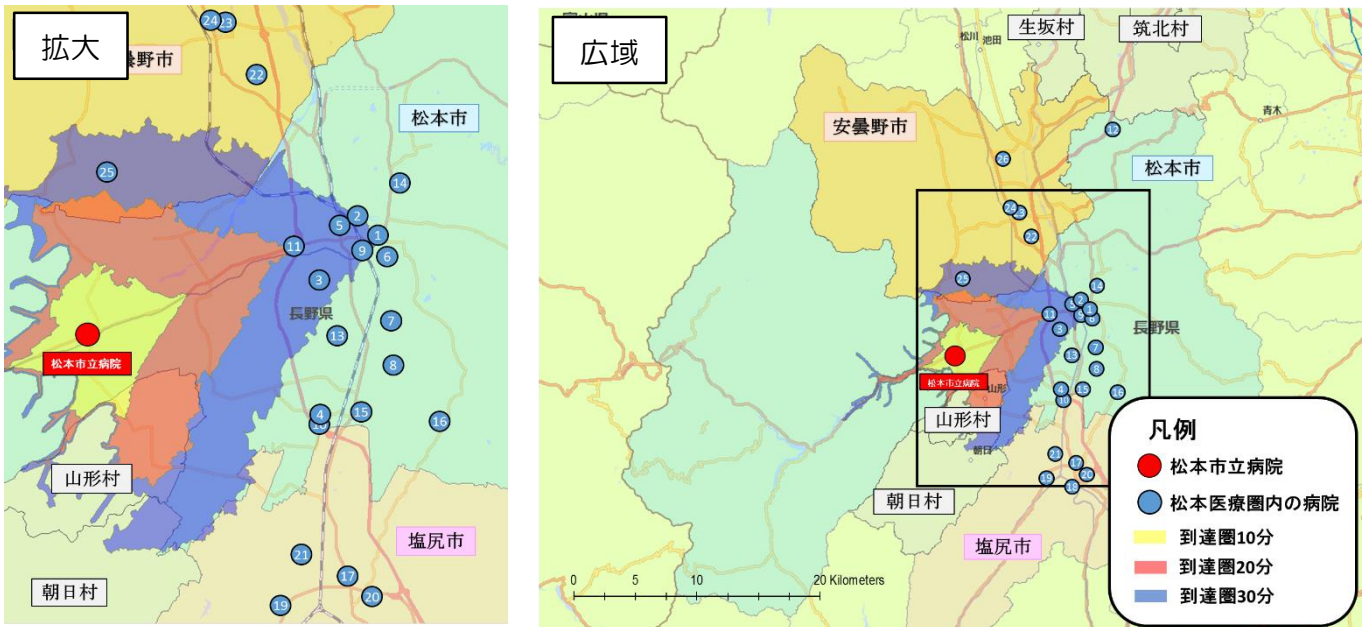
松本二次医療圏に所属する病院は、下表のとおりです。市立病院を除き 26 病院があり、そのうち松本市には 16 病院が設置されていますが、当院を中心として半径 5 キロメートル圏内には病院が設置されていない上、当院より西部にも病院が設置されていません。更に、山形村及び朝日村にも病院が設置されていません。



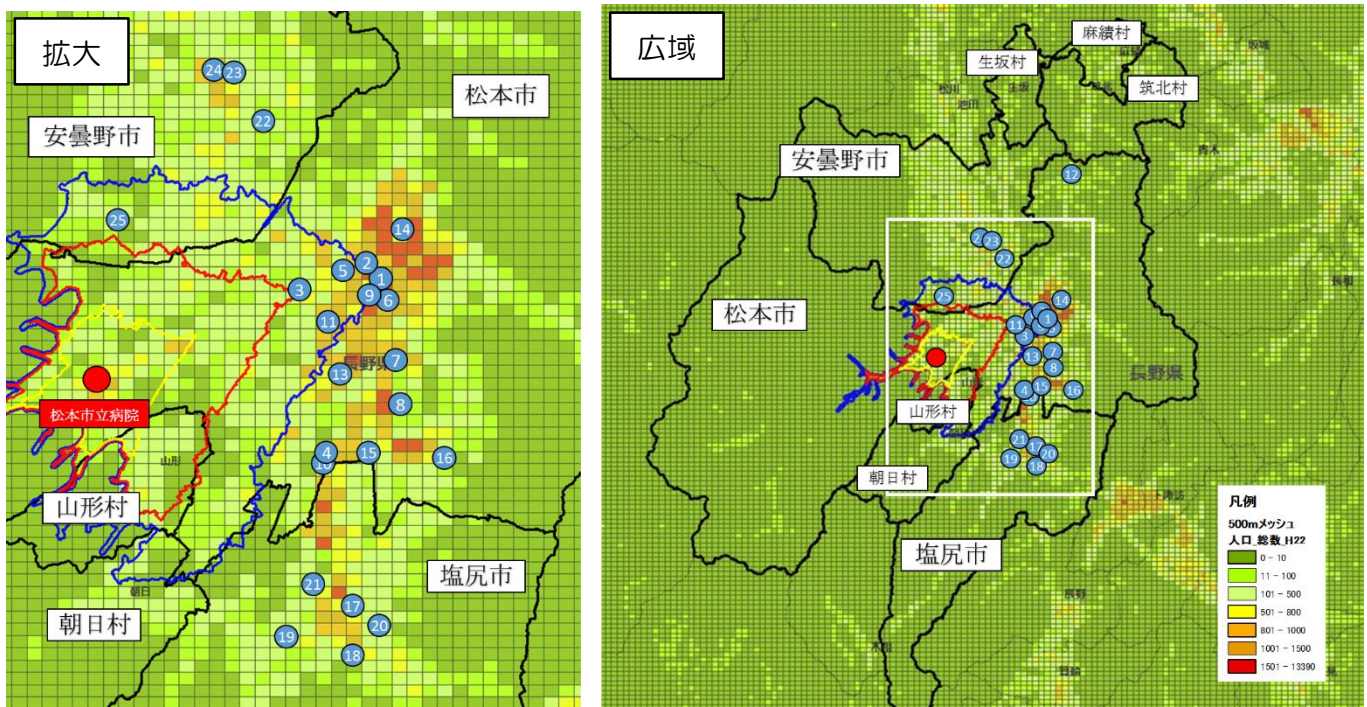
医療圏	市・郡	No	病院名称	全病床数(床)					
				一般病床(床)	感染症病床数(床)	療養病床数(床)	精神病床数(床)	結核病床数(床)	
松本	松本市	-	松本市立病院	215	209	6			
		1	藤森病院	60	60				
		2	社会医療法人城西医療財団 城西病院	226	85		71	70	
		3	医療法人 和心会 松南病院	240			40	200	
		4	医療法人 芳州会 村井病院	215				215	
		5	社会医療法人抱生会 丸の内病院	199	199				
		6	社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院	502	502				
		7	医療法人 愛生会 松岡病院	170				170	
		8	医療法人 青雲会 倉田病院	163				163	
		9	松本協立病院	199	199				
		10	医療法人 心泉会 上塚記念病院	151	34		117		
		11	一之瀬脳神経外科病院	50	50				
		12	松本市国民健康保険会田病院	31	11		20		
		13	松本中川病院	47	47				
		14	国立大学法人 信州大学医学部附属病院	707	667			40	
		15	独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター 松本病院	243	243				
	16	独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター 中信松本病院	330	280			50		
	塩尻市	17	医療法人 元山会 中村病院	100	56		44		
		18	医療法人 旌久会 塩尻病院	40	40				
		19	医療法人 社団 敬仁会 桔梗ヶ原病院	139	41		98		
		20	塩尻協立病院	99	42		57		
		21	松本歯科大学病院	31	31				
	安曇野市	22	長野県立こども病院	200	200				
		23	安曇野赤十字病院	321	321				
		24	豊科病院	140				140	
		25	社会医療法人 城西医療財団 ミサトピア小倉病院	200				200	
26		医療法人 仁徳会 穂高病院	127	79		48			

出典: 関東信越厚生局「届出受理医療機関名簿」H27.1.1現在

市立病院を中心とした乗用車による到達圏は下図のとおりです。到達圏10分圏内には病院が設置されておらず、松本駅周辺の病院までは到達圏30分程度です。

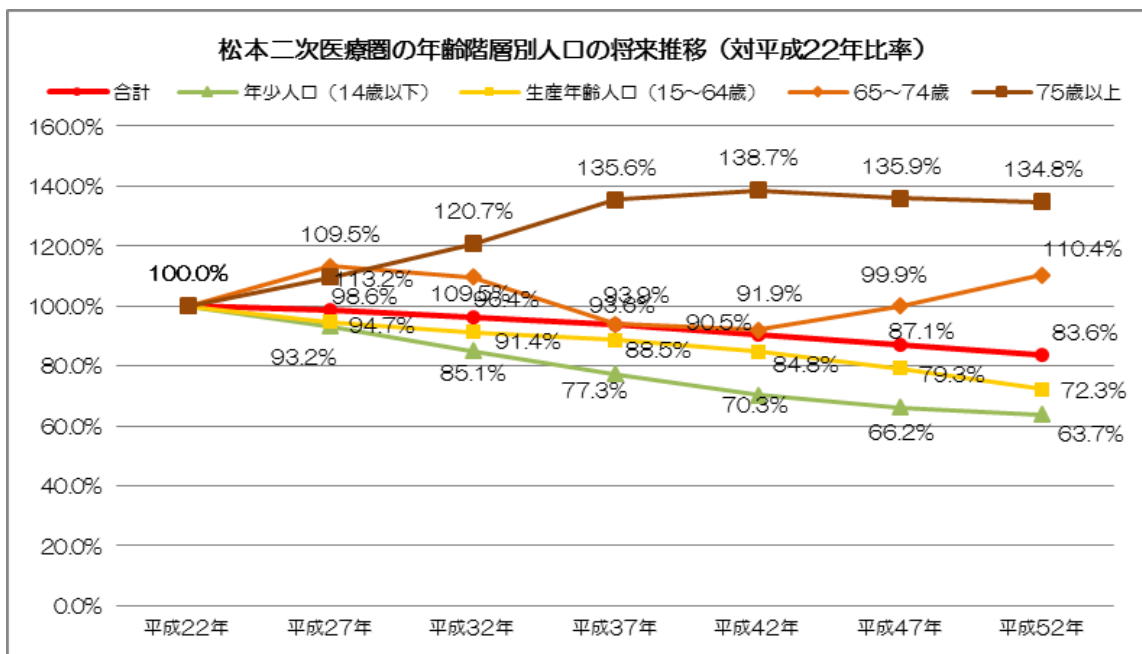
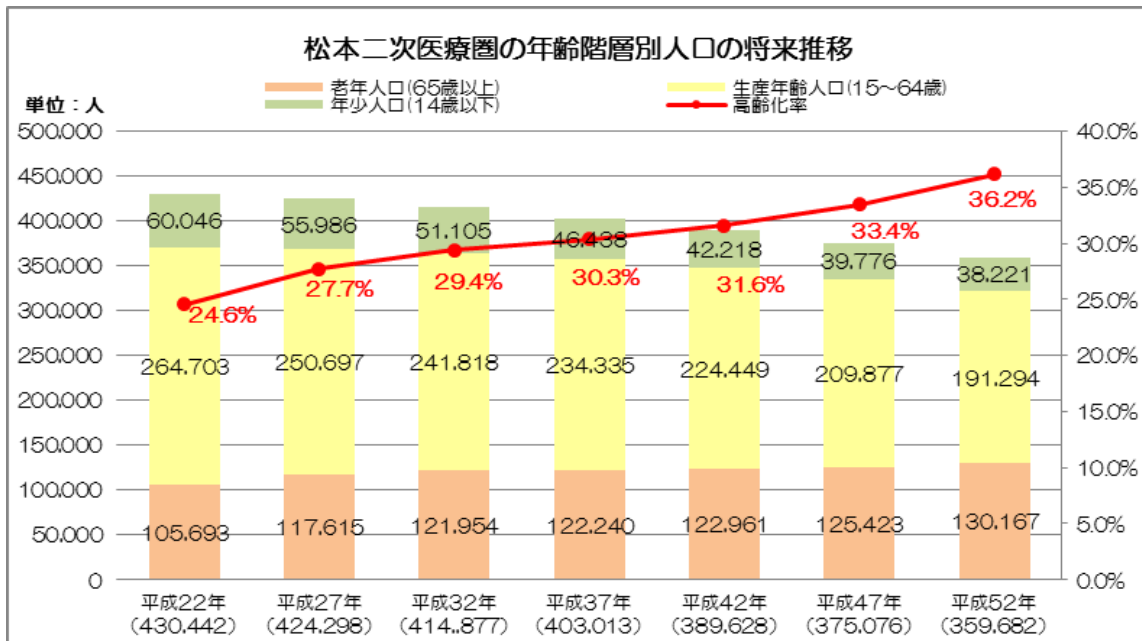


松本二次医療圏における500メートル人口メッシュ総人口は、下図のとおりです。松本市では、松本駅周辺に人口が密集し、病院もそれに合わせて設置されています。



(2) 将来人口推計

国立社会保障人口問題研究所による将来人口推計によれば、松本二次医療圏における人口は年々減少し、平成22年の430,442人から平成52年の359,682人まで減少することが予測されます。一方、人口に占める高齢者の割合は年々増加し、平成52年の高齢化率は、36.2パーセントに達することが予測されます。



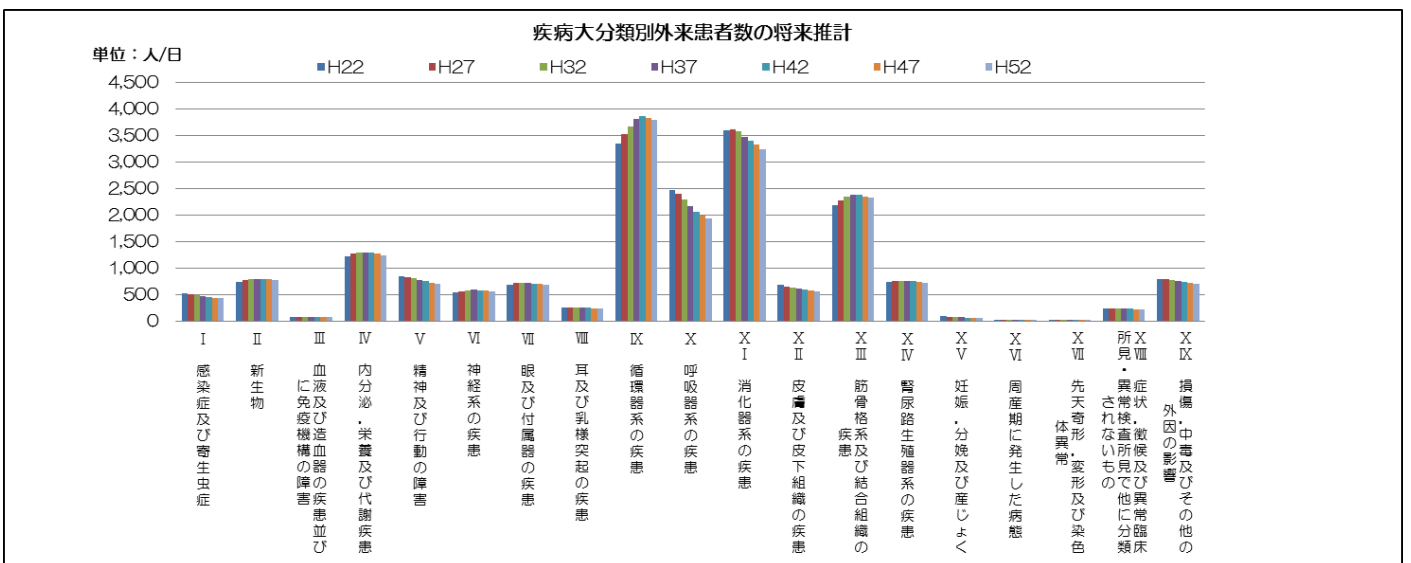
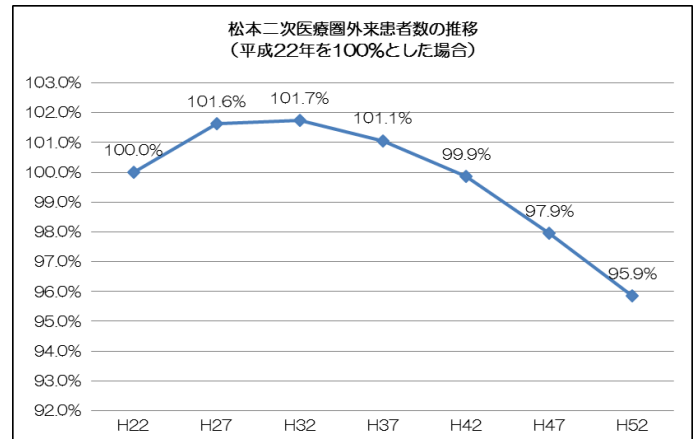
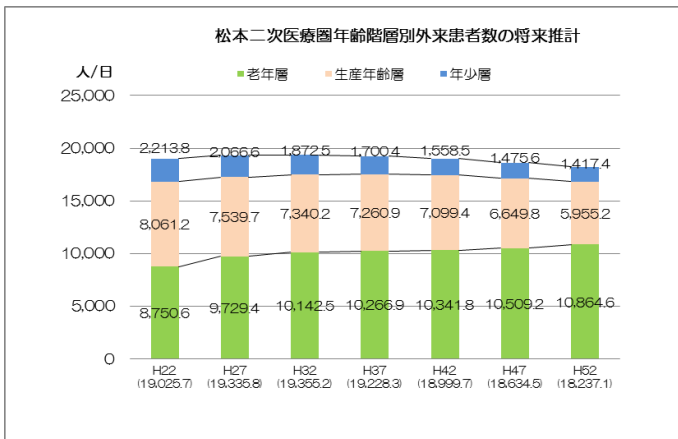
※「国立社会保障 人口問題研究所 日本の市町村別将来推計人口(平成25年3月推計)」より

(3) 将来患者需要予測

ア 松本二次医療圏における外来患者数の将来推計

松本二次医療圏の将来人口推計結果に、長野県の外来受療率を用いて将来外来患者数を推計したところ、松本二次医療圏における外来患者数は、平成 32 年まで増加傾向にあり、その後は減少に転じ、平成 52 年には1日当たり 18,237.1 人となることが予測されます。

外来患者の主たる疾患は、「循環器系の疾患」、「消化器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」及び「呼吸器系疾患」と予測されます。このうち、「消化器系疾患」及び「呼吸器系疾患」は、松本二次医療圏の全人口の推移と同様、減少傾向にありますが、「循環器系疾患」及び「筋骨格系及び結合組織の疾患」は、平成 42 年まで増加した後、減少傾向に転じることが予測されます。



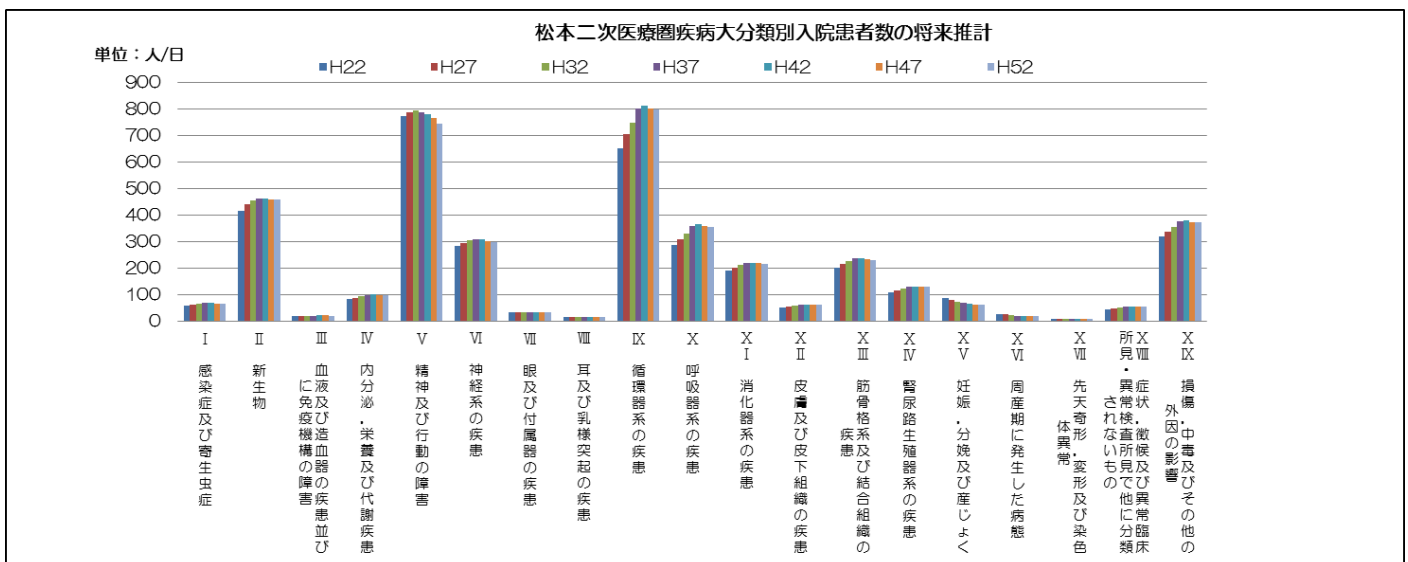
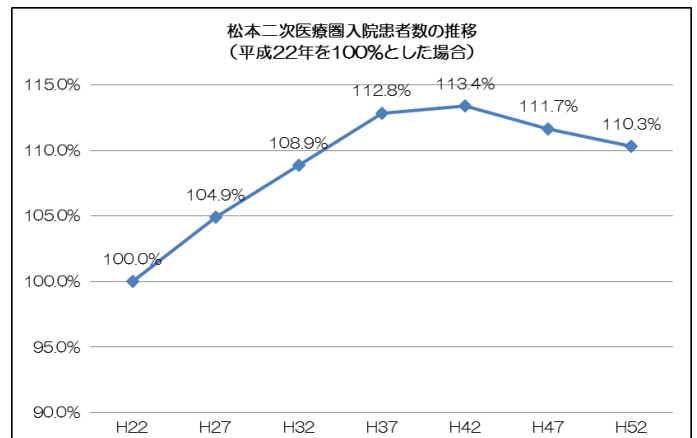
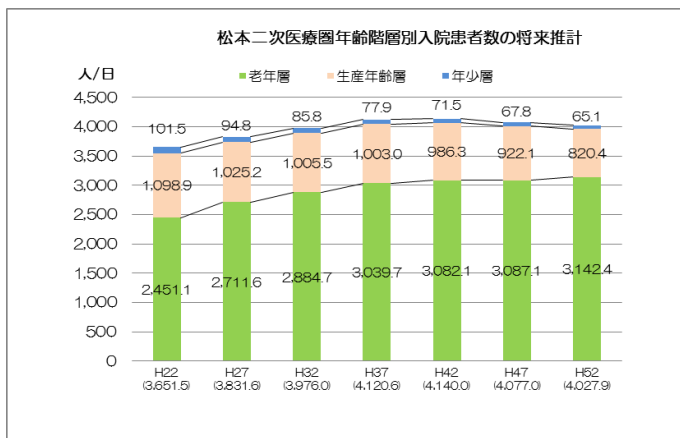
※「国立社会保障 人口問題研究所 日本の市町村別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計)」より

※「厚生労働省 平成 23 年患者調査」より

イ 松本二次医療圏における入院患者数の将来推計

松本二次医療圏の将来人口推計結果に、長野県の入院受療率を用いて将来入院患者数を推計したところ、松本二次医療圏における入院患者数は、平成42年まで増加傾向にあり、その後は減少に転じ、平成52年には1日当たり4,027.9人となることが予測されます。

入院患者の主たる疾患は、「精神及び行動の障害」、「循環器系の疾患」及び「新生物」であり、特に「循環器系の疾患」においては、平成42年まで入院患者数の増加が顕著となることが予測されます。



(4) 松本二次医療圏 DPC 病院疾患比較

松本二次医療圏に所属する DPC 病院は、下表 9 病院(市立病院含む。)であり、各病院における疾病の傾向は下表のとおりです。

松本市立病院の疾患は、MDC12(女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩)が最も多く、次いで MDC6(消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患)、MDC4(呼吸器系疾患)です。

施設名	松本						安曇野		
	松本市立病院	国立大学法人信州大学医学部附属病院	社会医療法人財団 慈泉会相澤病院	松本協立病院	社会医療法人抱生会丸の内病院	一之瀬脳神経外科病院	安曇野赤十字病院	長野県立こども病院	医療法人 仁雄会 穂高病院
一般病床数	209床	667床	502床	199床	199床	50床	321床	200床	79床
病床割合	8.6%	27.5%	20.7%	8.2%	8.2%	2.1%	13.2%	8.2%	3.3%
1 神経系疾患	3.1%	5.3%	10.8%	4.2%	1.0%	66.3%	8.1%	6.8%	4.2%
2 眼科系疾患	0.1%	8.2%	1.0%	0.0%	3.6%	0.4%	2.4%	2.4%	6.4%
3 耳鼻咽喉科系疾患	2.6%	4.4%	2.0%	10.2%	0.5%	8.9%	5.4%	1.3%	5.1%
4 呼吸器系疾患	13.1%	7.7%	14.5%	11.7%	3.5%	0.3%	12.6%	10.5%	8.4%
5 循環器系疾患	3.7%	11.5%	10.9%	30.8%	1.4%	1.4%	11.8%	3.6%	3.7%
6 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	20.2%	15.8%	20.6%	23.6%	12.7%	0.3%	22.0%	8.2%	20.7%
7 筋骨格系疾患	2.8%	9.4%	5.1%	1.5%	8.2%	0.4%	9.0%	5.9%	4.5%
8 皮膚・皮下組織の疾患	1.5%	2.6%	1.4%	0.7%	0.6%	0.3%	0.7%	3.2%	0.7%
9 乳房の疾患	1.2%	1.5%	0.8%	1.2%	0.6%	3.8%	0.0%	0.0%	0.7%
10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患	3.0%	5.5%	2.8%	4.1%	1.1%	2.0%	3.3%	2.5%	0.9%
11 腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	5.4%	6.1%	10.2%	4.1%	1.6%	1.9%	8.6%	1.8%	1.3%
12 女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	21.8%	9.9%	2.4%	0.1%	36.5%	0.0%	0.7%	13.5%	20.8%
13 血液・造血器・免疫臓器の疾患	0.8%	3.2%	1.0%	2.0%	0.2%	0.0%	0.9%	2.6%	0.7%
14 新生児疾患、先天性奇形	4.7%	3.5%	0.5%	0.1%	13.7%	0.0%	0.2%	30.8%	7.9%
15 小児疾患	4.8%	0.3%	1.1%	1.2%	0.5%	0.2%	3.1%	2.6%	0.9%
16 外傷・熱傷・中毒	9.5%	3.2%	12.0%	2.4%	13.0%	12.4%	9.0%	1.6%	12.8%
17 精神疾患	0.2%	0.1%	0.4%	0.1%	0.1%	0.4%	0.4%	0.1%	0.1%
18 その他	1.6%	1.7%	2.4%	1.8%	1.1%	0.9%	1.9%	2.6%	0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
全体	3,431	13,103	11,453	3,492	2,647	1,174	5,119	3,138	1,364

※ 出典：厚生労働省DPC評価分科会（平成26年）施設別MDC比率

最もシェアが高い疾患 2番目にシェアが高い疾患 3番目にシェアが高い疾患

※各項目のシェアの数値については、端数処理のため合計が 100%にならないことがあります。

松本二次医療圏に所属するDPC病院におけるMDC別シェアは下表のとおりです。

MDC15(小児疾患)については、比較対象病院の中で当院が最もシェアが高く、MDC12(女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩)においても、比較的高いシェアです。

施設名	松本						安曇野			合計
	松本市立病院	国立大学法人 信州大学医学部 附属病院	社会医療法人財 団 慈恵会 相澤病院	松本協立病院	社会医療法人 抱生会 丸の内 病院	一之瀬脳神経 外科病院	安曇野赤十字 病院	長野県立こども 病院	医療法人 仁徳 会 穂高病院	
一般病床数	209床	667床	502床	199床	199床	50床	321床	200床	79床	2,426床
病床割合	8.6%	27.5%	20.7%	8.2%	8.2%	2.1%	13.2%	8.2%	3.3%	100.0%
1 神経系疾患	件数 107 シェア 2.9%	701 19.0%	1,240 33.6%	148 4.0%	26 0.7%	778 21.1%	417 11.3%	214 5.8%	57 1.5%	3,688 100.0%
2 眼科系疾患	件数 3 シェア 0.2%	1,079 68.3%	113 7.2%	0 0.0%	96 6.1%	5 0.3%	121 7.7%	76 4.8%	87 5.5%	1,580 100.0%
3 耳鼻咽喉科系疾患	件数 89 シェア 5.1%	576 33.0%	225 12.9%	357 20.4%	12 0.7%	105 6.0%	274 15.7%	41 2.3%	69 3.9%	1,748 100.0%
4 呼吸器系疾患	件数 450 シェア 9.6%	1,010 21.4%	1,660 35.2%	409 8.7%	92 2.0%	3 0.1%	646 13.7%	328 7.0%	114 2.4%	4,712 100.0%
5 循環器系疾患	件数 127 シェア 2.7%	1,507 31.5%	1,254 26.2%	1,077 22.5%	37 0.8%	16 0.3%	602 12.6%	112 2.3%	51 1.1%	4,783 100.0%
6 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	件数 692 シェア 8.7%	2,066 26.0%	2,363 29.7%	825 10.4%	337 4.2%	4 0.1%	1,124 14.1%	257 3.2%	282 3.5%	7,950 100.0%
7 筋骨格系疾患	件数 96 シェア 3.3%	1,232 42.5%	585 20.2%	51 1.8%	218 7.5%	5 0.2%	463 16.0%	185 6.4%	62 2.1%	2,897 100.0%
8 皮膚・皮下組織の疾患	件数 51 シェア 6.8%	338 45.2%	165 22.1%	26 3.5%	17 2.3%	4 0.5%	37 5.0%	100 13.4%	9 1.2%	747 100.0%
9 乳房の疾患	件数 41 シェア 9.3%	194 44.0%	90 20.4%	42 9.5%	17 3.9%	45 10.2%	2 0.5%	0 0.0%	10 2.3%	441 100.0%
10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患	件数 102 シェア 6.4%	716 44.9%	320 20.1%	143 9.0%	30 1.9%	24 1.5%	167 10.5%	79 5.0%	12 0.8%	1,593 100.0%
11 腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	件数 185 シェア 6.4%	804 27.9%	1,167 40.5%	144 5.0%	42 1.5%	22 0.8%	441 15.3%	58 2.0%	18 0.6%	2,881 100.0%
12 女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	件数 747 シェア 18.5%	1,301 32.2%	280 6.9%	5 0.1%	967 23.9%	0 0.0%	38 0.9%	423 10.5%	284 7.0%	4,045 100.0%
13 血液・造血器・免疫臓器の疾患	件数 26 シェア 3.4%	415 54.5%	109 14.3%	71 9.3%	4 0.5%	0 0.0%	44 5.8%	83 10.9%	10 1.3%	762 100.0%
14 新生児疾患、先天性奇形	件数 161 シェア 7.5%	464 21.7%	62 2.9%	3 0.1%	362 16.9%	0 0.0%	11 0.5%	965 45.2%	108 5.1%	2,136 100.0%
15 小児疾患	件数 166 シェア 25.9%	40 6.2%	127 19.8%	41 6.4%	14 2.2%	2 0.3%	158 24.6%	81 12.6%	12 1.9%	641 100.0%
16 外傷・熱傷・中毒	件数 325 シェア 9.6%	422 12.5%	1,369 40.6%	83 2.5%	345 10.2%	146 4.3%	459 13.6%	51 1.5%	175 5.2%	3,375 100.0%
17 精神疾患	件数 7 シェア 7.4%	9 9.6%	44 46.8%	4 4.3%	3 3.2%	5 5.3%	18 19.1%	2 2.1%	2 2.1%	94 100.0%
18 その他	件数 56 シェア 6.6%	229 27.0%	280 33.0%	63 7.4%	28 3.3%	10 1.2%	97 11.4%	83 9.8%	2 0.2%	848 100.0%
総計	件数 3,431 シェア 7.6%	13,103 29.2%	11,453 25.5%	3,492 7.8%	2,647 5.9%	1,174 2.6%	5,119 11.4%	3,138 7.0%	1,364 3.0%	44,921 100.0%

※厚生労働省DPC評価分科会(平成26年)施設別MDC比率から算出

最もシェアが高い病院 2番目にシェアが高い病院 3番目にシェアが高い病院

※各項目のシェアの数値については、端数処理のため合計が100%にならないことがあります。

(5) 救急医療提供の状況

ア 松本二次医療圏救急搬送の状況

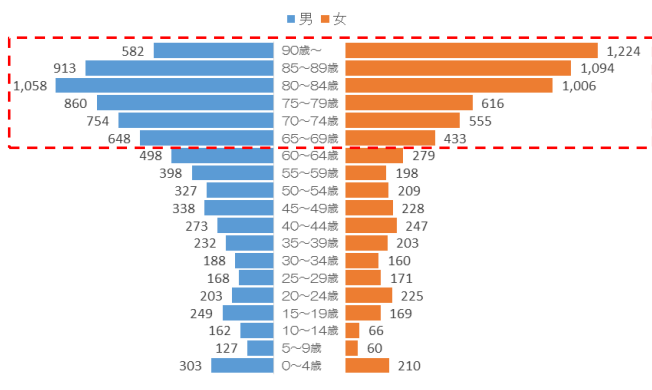
松本広域消防局の搬送傷病者内訳データ(平成26年9月～平成27年8月)を用いて、松本二次医療圏における救急搬送状況を整理した結果は下表のとおりとなっています。

平成26年9月から平成27年8月までの1年間に発生した救急車による搬送件数は、松本市で9,034件と最も多く、次に、安曇野市が3,617件、塩尻市が2,085件です。また、東筑摩郡の各村は1～300件弱です。年齢階層別の救急搬送件数を見ると、松本二次医療圏及び市立病院ともに、男女65歳以上の高齢者の救急搬送が多くなっています。

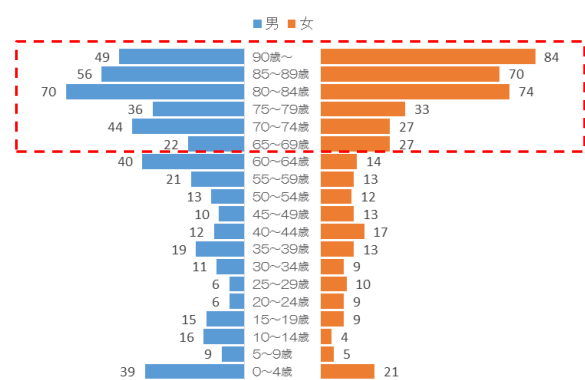
発生元別の救急搬送件数

市町村別	救急搬送件数	
	件数	割合
松本市	9,034件	57.8%
安曇野市	3,617件	23.1%
塩尻市	2,085件	13.3%
東筑摩郡筑北村	285件	1.8%
東筑摩郡山形村	263件	1.7%
東筑摩郡麻績村	209件	1.3%
東筑摩郡朝日村	140件	0.9%
東筑摩郡生坂村	1件	0.0%
合計	15,634件	100.0%

松本医療圏5歳階級別搬送件数



松本市立病院5歳階級別搬送件数



※「松本広域消防局 搬送傷病者内訳(平成26年9月～平成27年8月)」より

イ 松本市立病院救急搬送発生元の状況

市立病院への救急搬送を発生元別に整理し、救急医療における診療範囲を調査した結果は下表のとおりです。当院の発生元別救急搬送件数は、松本市波田が252件と最も多く、次いで、山形村一円で114件、松本市梓川梓で80件、松本市梓川倭で52件となっています。

発生元別の全体件数に占める当院の救急搬送割合は、松本市波田・梓川梓・安曇等の松本市西部や朝日村、山形村において高い割合を占めています。

発生元別松本市立病院救急搬送件数

市町村別	松本市立病院救急搬送件数		全体搬送件数	全体件数に占める割合
	件数	割合		
松本市波田	252件	26.3%	463件	54.4%
東筑摩郡山形村山形村一円	114件	11.9%	263件	43.3%
松本市梓川梓	80件	8.4%	130件	61.5%
松本市梓川倭	52件	5.4%	199件	26.1%
東筑摩郡朝日村古見	41件	4.3%	74件	55.4%
松本市奈川	35件	3.7%	52件	67.3%
松本市安曇(上高地)	30件	3.1%	39件	76.9%
松本市和田	29件	3.0%	128件	22.7%
安曇野市三郷温	24件	2.5%	208件	11.5%
松本市今井	22件	2.3%	181件	12.2%
松本市新村	19件	2.0%	128件	14.8%
松本市安曇(大野田)	18件	1.9%	33件	54.5%
東筑摩郡朝日村西洗馬	16件	1.7%	34件	47.1%
松本市安曇(鈴蘭)	14件	1.5%	26件	53.8%
安曇野市三郷小倉	12件	1.3%	97件	12.4%
安曇野市三郷明盛	12件	1.3%	282件	4.3%
松本市梓川上野	12件	1.3%	15件	80.0%
松本市安曇(稲核)	12件	1.3%	15件	80.0%
塩尻市洗馬	10件	1.0%	157件	6.4%
松本市神林	10件	1.0%	176件	5.7%
松本市安曇(白骨)	9件	0.9%	9件	100.0%
東筑摩郡朝日村小野沢	9件	0.9%	19件	47.4%
松本市島立	8件	0.8%	405件	2.0%
塩尻市宗賀	6件	0.6%	263件	2.3%
安曇野市豊科高家	5件	0.5%	317件	1.6%
松本市安曇(沢渡)	5件	0.5%	8件	62.5%
松本市安曇(檜ノ木)	5件	0.5%	9件	55.6%
松本市安曇(番所)	5件	0.5%	6件	83.3%
松本市渚	5件	0.5%	252件	2.0%
東筑摩郡朝日村針尾	5件	0.5%	13件	38.5%
その他	82件	8.6%	11,633件	0.7%
合計	958件	100.0%	15,634件	6.1%

※「松本広域消防局 搬送傷病者内訳(平成26年9月～平成27年8月)」より

ウ 傷病程度別搬送状況

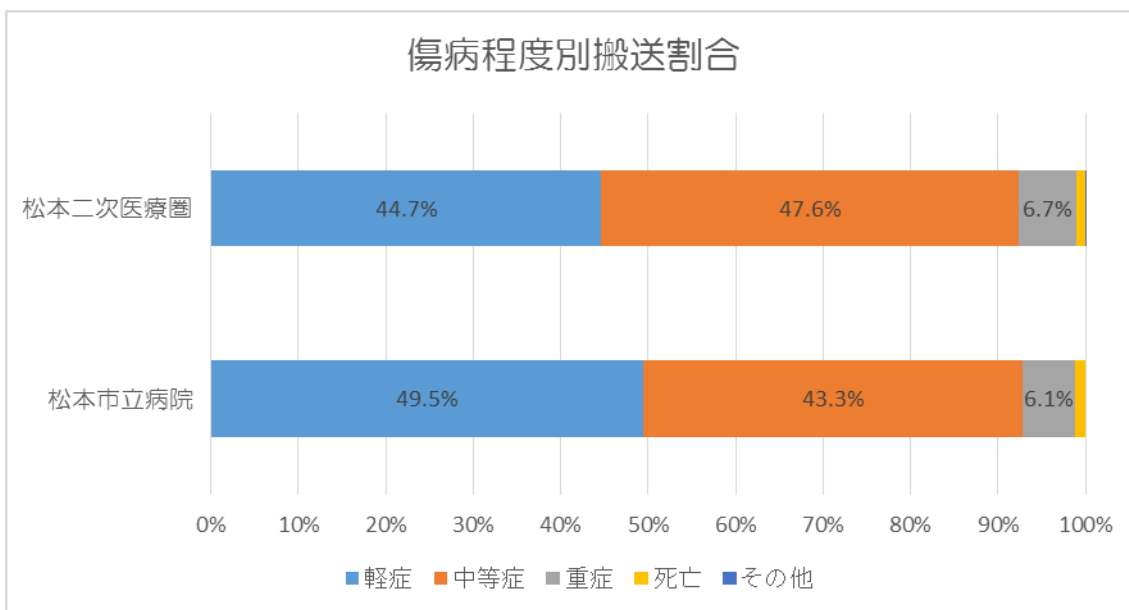
松本二次医療圏における傷病程度別の救急搬送件数は、中等症による救急搬送件数が全体の47.6パーセントと最も高い割合を占め、次に、軽症が44.7パーセント、重症が6.7パーセントを占めています。市立病院の傷病程度別の搬送件数は、軽症が49.5パーセントと最も高い割合を占め、次に、中等症が43.3パーセント、重症が6.1パーセントを占めています。

傷病程度別救急搬送件数

傷病程度別件数	軽症	中等症	重症	死亡	その他	合計
松本二次医療圏	6,981件	7,449件	1,041件	162件	1件	15,634件
松本市立病院	474件	415件	58件	11件	0件	958件

傷病程度別救急搬送割合

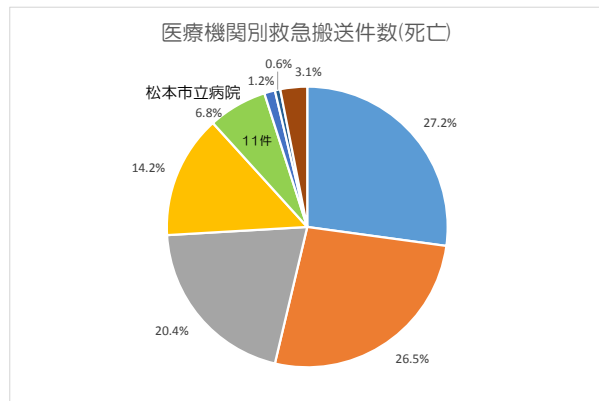
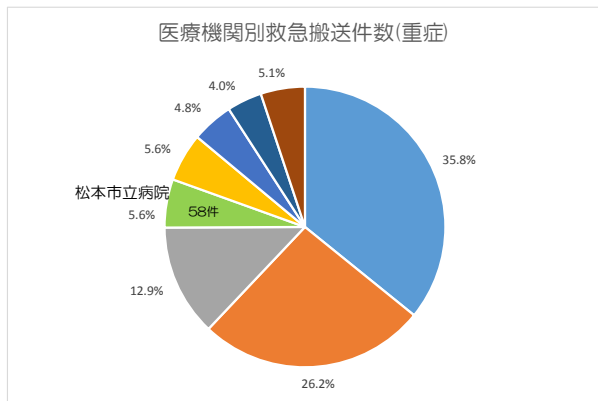
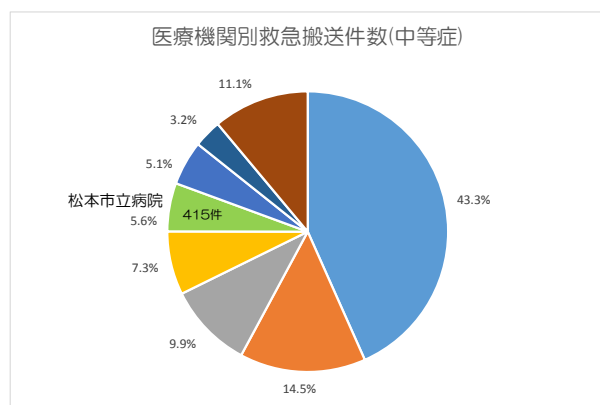
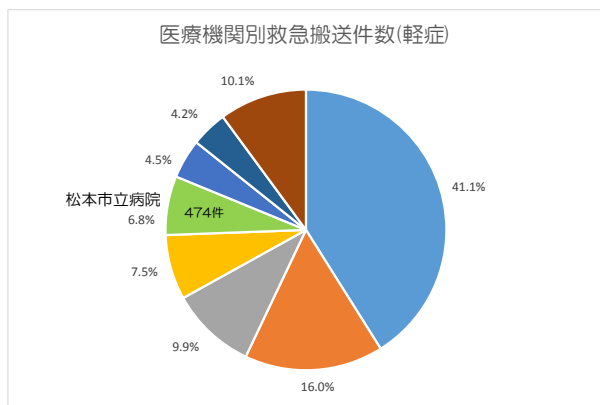
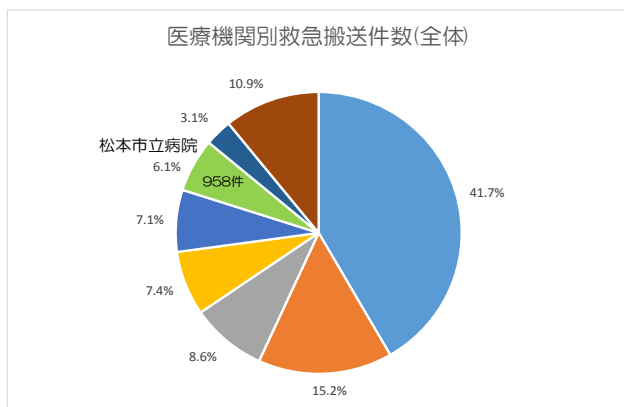
傷病程度別割合	軽症	中等症	重症	死亡	その他	合計
松本二次医療圏	44.7%	47.6%	6.7%	1.0%	0.0%	100.0%
松本市立病院	49.5%	43.3%	6.1%	1.1%	0.0%	100.0%



※「松本広域消防局 搬送傷病者内訳(平成26年9月～平成27年8月)」より

エ 医療機関別救急受入状況

救急搬送先の医療機関を見ると、市立病院への搬送件数の合計は 958 件であり、対象医療機関中 6 番目に多く、全体の 6.1 パーセントを占めています。また、傷病程度別に見ると、軽症患者の搬送件数は、対象医療機関中 5 番目に多く、全体の 6.8 パーセントを占めています。中等症患者の搬送件数は、対象医療機関中 5 番目に多く、全体の 5.6 パーセントを占めています。重症患者の搬送件数は、対象医療機関中 4 番目に多く、全体の 5.6 パーセントを占めています。死亡患者の搬送件数は、対象医療機関中 5 番目に多く、全体の 6.8 パーセントを占めています。



※「松本広域消防局 搬送傷病者内訳(平成 26 年 9 月～平成 27 年 8 月)」より

※割合の数値は、端数処理のため合計が 100%にならないことがあります。

2 市立病院を取り巻く内部環境

(1) 経営状況

ア 患者数の推移

平成 23 年度から平成 26 年度までの市立病院の入院延患者数は、平成 24 年度が 59,138 人と最も多く、平成 26 年度には平成 24 年度より 1 年当たり $\Delta 7,696$ 人と減少傾向です。また、平成 23 年度から平成 26 年度までの当院の外来患者数は、平成 24 年度が 116,842 人と最も多く、平成 26 年度には平成 24 年度より 1 年当たり $\Delta 2,589$ 人と若干の減少傾向です。

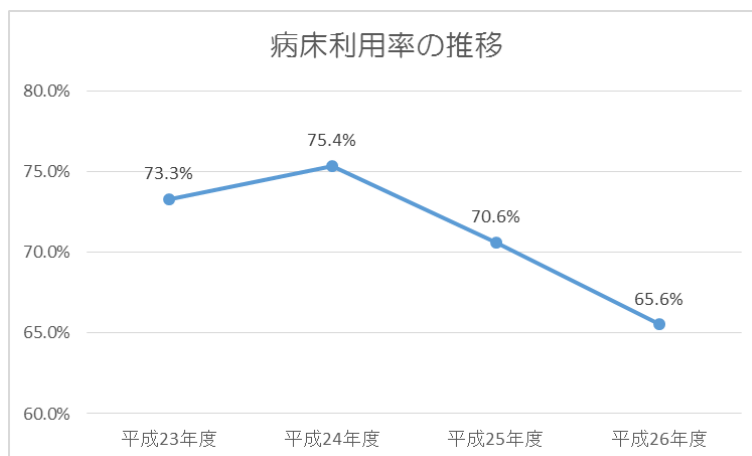
将来的な人口減少が予測される当院周辺地域において、患者数の確保に向けた取り組みが必要です。



※「松本市立病院 年報(2011~2014)」より

イ 病床利用率の推移

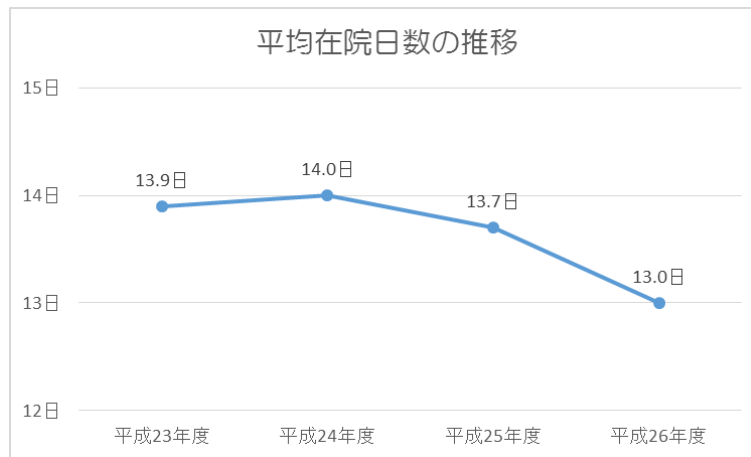
平成 23 年度から平成 26 年度までの市立病院の病床利用率は、平成 24 年度が 75.4 パーセントと最も高く、平成 26 年度は平成 24 年度より $\Delta 9.8$ パーセントと低下傾向にあります。今後の公立病院改革ガイドラインにおける病床利用率 70 パーセント未満の病院は、病床数の見直しが行われるため、上記患者数の確保とともに、病床利用率の向上に向けた取り組みが必要です。



※「松本市立病院 年報(2011~2014)」より

ウ 平均在院日数の推移

平成 23 年度から平成 26 年度の市立病院の平均在院日数は、平成 26 年度が 13.0 日と最も短く、3 カ年で概ね 13～14 日程度で推移しています。今後、急性期病院の平均在院日数が短縮されることが示唆されているため、他医療機関との連携を強化し、平均在院日数の短縮に努める必要があります。

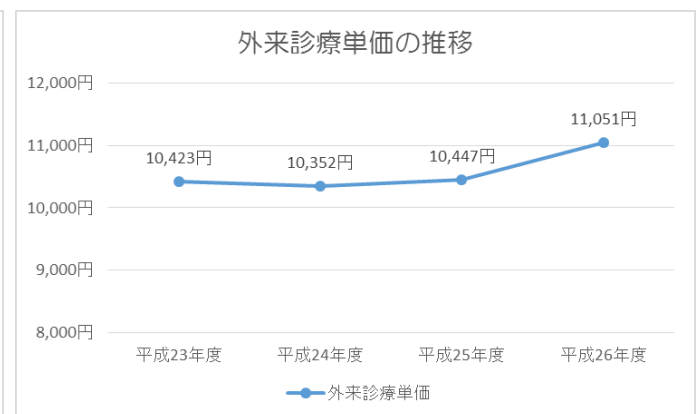
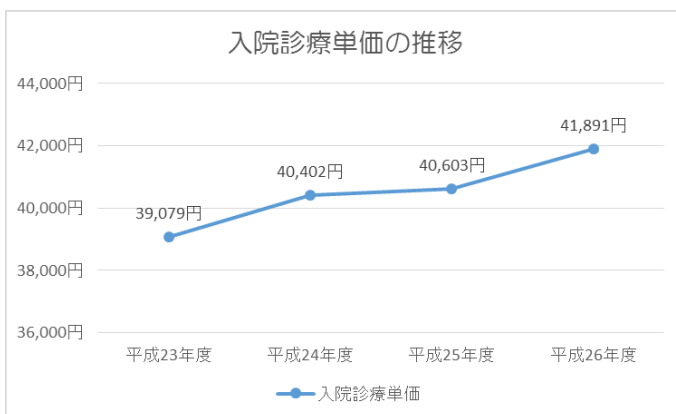


※「松本市立病院 年報(2011～2014)」より

エ 診療単価の推移

平成 23 年度から平成 26 年度までの市立病院の入院診療単価は、平成 23 年度の 39,079 円から平成 26 年度には 41,891 円と約 2,800 円程度高くなっています。また、平成 23 年度から平成 26 年度までの当院の外来診療単価は、平成 26 年度が 11,051 円と最も高く、3 カ年で概ね 10,000 円～11,000 円程度で推移しています。

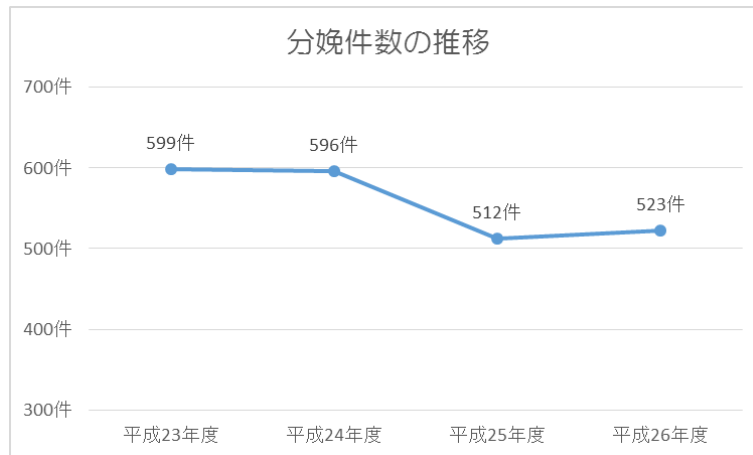
自治体病院である当院は、「政策医療」を担わなければならないという使命がありますが、より一層の健全経営を実現するため、診療単価の向上に向けた取組みが必要です。



※「松本市立病院 年報(2011～2014)」より

オ 分娩件数の推移

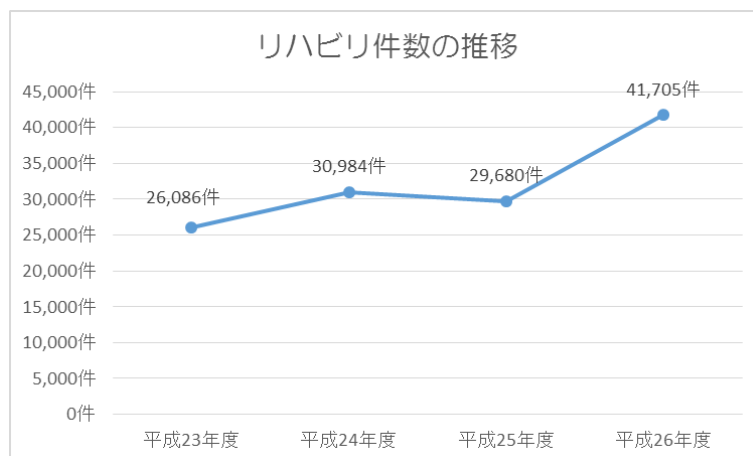
平成 23 年度から平成 26 年度までの市立病院の分娩件数の推移は、平成 23 年度が 599 件と最も高く、平成 26 年度は、平成 23 年度より△76 件と減少傾向にあります。現状、減少傾向にあるものの、分娩件数は高い数値で推移しており、当院の周産期医療が地域に果たしている役割は大きいと言えます。



※「松本市立病院 病院提供データ」より

カ リハビリ件数の推移

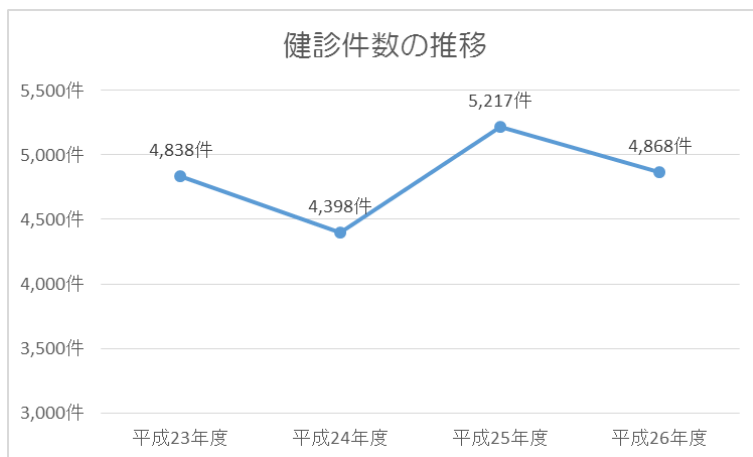
平成 23 年度から平成 26 年度までの市立病院のリハビリ件数の推移は、平成 26 年度が 41,705 件と最も高く、平成 23 年度から増加傾向で推移しています。今後、高齢者の増加に伴い、リハビリテーションの需要が高まることが予測されるため、リハビリテーションの強化・充実が必要です。



※「松本市立病院 病院提供データ」より

キ 健診件数の推移

平成 23 年度から平成 26 年度までの市立病院の健診件数の推移は、平成 25 年度が 5,217 件と最も高く、平成 23 年度より増加傾向で推移しています。当院が位置する松本市は、「健康寿命延伸都市」の創造プロジェクトを推進していることから、予防医療領域の更なる需要の高まりが予測されるため、健診機能の充実を図る必要があります。



※「松本市立病院 病院提供データ」より

(2) 診療圏分析(医事レセプトデータ分析)

ア 入院患者の診療圏

院内医事レセプトデータ(平成27年5月～7月)を用いて、市立病院入院患者の住所地を整理し、当院の診療圏を分析した結果は、下表のとおりです。

市村別の患者割合は、当院が位置する松本市が64.3パーセントと最も高く、その内訳は波田・梓川・安曇等の松本市西部地域の患者が多いです。一方で、松本市に隣接する山形村・安曇野市・塩尻市・朝日村の患者割合が高くなっています。

入院患者の住所地

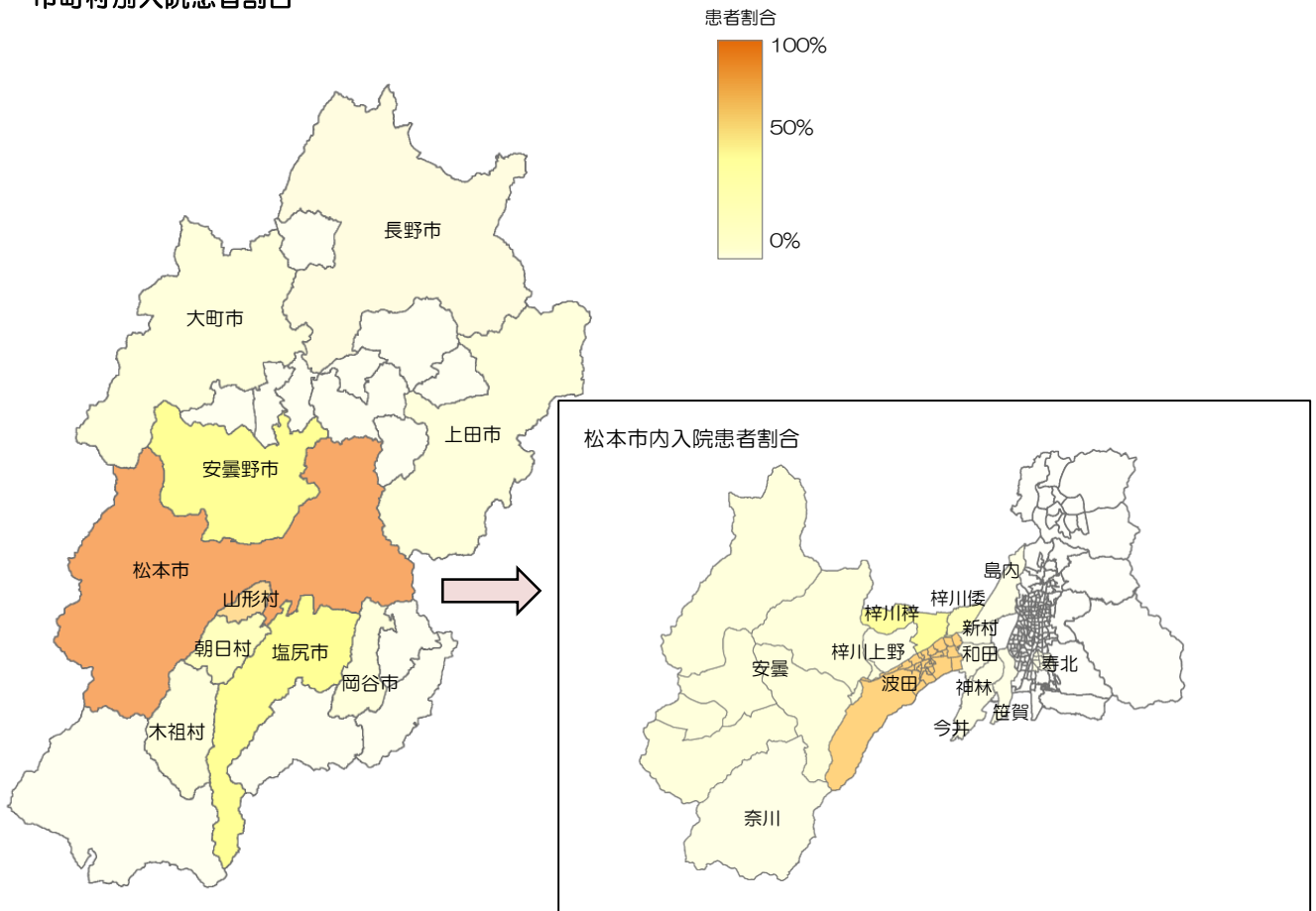
市町村	医療圏	入院実患者数	割合
松本市	松本	648	64.3%
東筑摩郡山形村	松本	104	10.3%
安曇野市	松本	71	7.0%
塩尻市	松本	71	7.0%
東筑摩郡朝日村	松本	53	5.3%
長野市	長野	8	0.8%
上田市	上小	5	0.5%
岡谷市	諏訪	3	0.3%
大町市	大北	2	0.2%
木曾郡木祖村	木曾	2	0.2%
その他長野県内医療圏		8	0.8%
長野県外		33	3.3%
合計		1,008	100.0%



大字	入院実患者数	割合
波田	273	27.1%
梓川梓	73	7.2%
梓川倭	46	4.6%
安曇	31	3.1%
和田	30	3.0%
今井	29	2.9%
新村	18	1.8%
神林	18	1.8%
島内	18	1.8%
奈川	17	1.7%
笹賀	14	1.4%
寿北	11	1.1%
梓川上野	10	1.0%
その他	60	6.0%

*出典：院内医事レセプトデータ(平成27年5月～平成27年7月)

市町村別入院患者割合



イ 外来患者の診療圏

院内医事レセプトデータ(平成27年5月～7月)を用いて、市立病院外来患者の住所地を整理し、当院の診療圏を分析した結果は下表のとおりです。

市村別の患者割合は、入院と同様に当院が位置する松本市西部地域が72.9パーセントと最も高く、隣接する山形村・安曇野市・朝日村・塩尻市の患者割合が高くなっています。

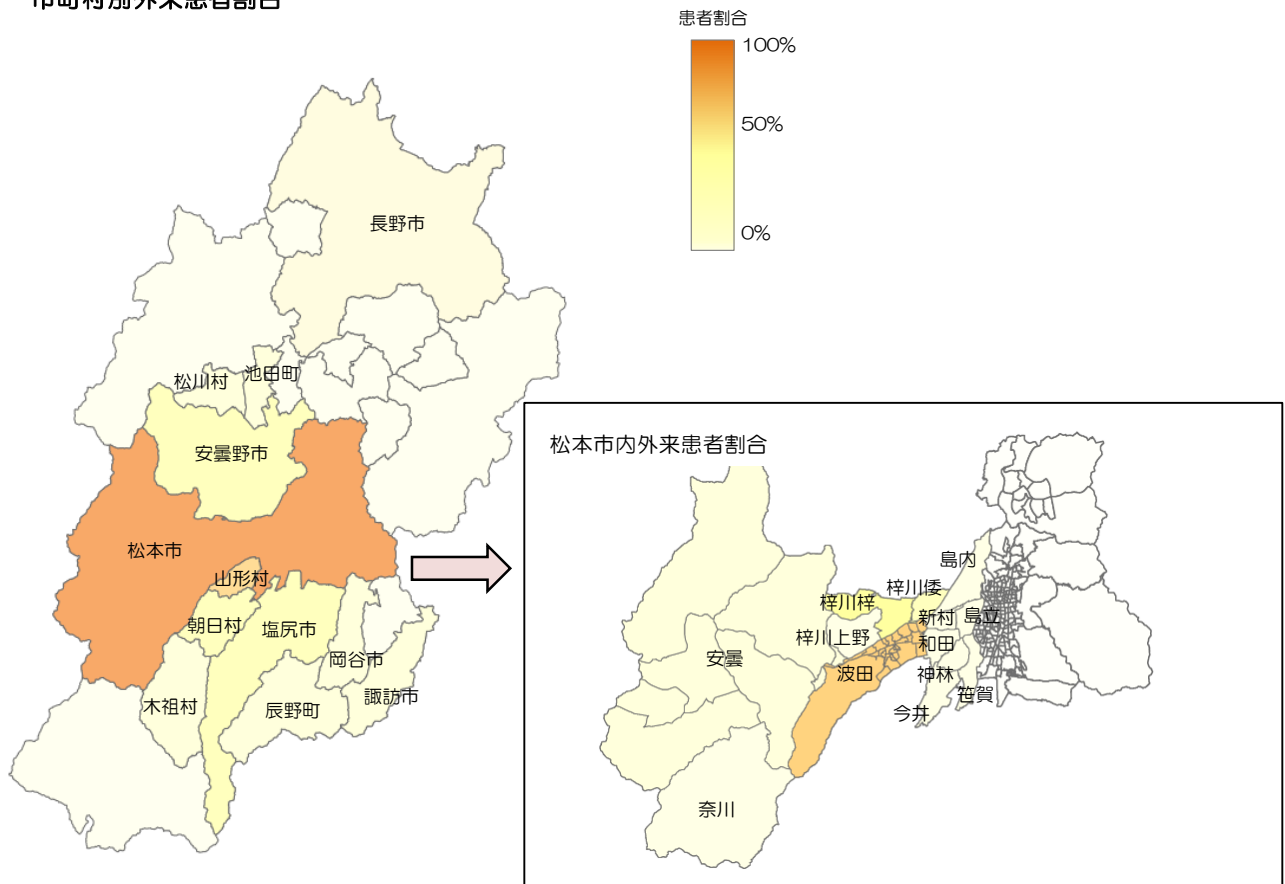
外来患者の住所地

市町村	医療圏	外来実患者数	割合
松本市	松本	17,215	72.9%
東筑摩郡山形村	松本	2,372	10.0%
安曇野市	松本	1,302	5.5%
東筑摩郡朝日村	松本	1,104	4.7%
塩尻市	松本	1,076	4.6%
長野市	長野	46	0.2%
北安曇野郡池田町	大北	18	0.1%
諏訪市	諏訪	16	0.1%
木曾郡本祖村	木曾	16	0.1%
上伊那郡辰野町	上伊那	13	0.1%
岡谷市	諏訪	12	0.1%
北安曇野郡松川村	大北	12	0.1%
その他長野県内医療圏		131	0.6%
長野県外		272	1.2%
合計		23,605	100.0%

大字	外来実患者数	割合
波田	9,131	38.7%
梓川梓	1,607	6.8%
梓川倭	1,076	4.6%
安曇	907	3.8%
今井	634	2.7%
和田	626	2.7%
新村	467	2.0%
梓川上野	447	1.9%
笹賀	377	1.6%
奈川	365	1.5%
島内	265	1.1%
神林	224	0.9%
島立	145	0.6%
その他	944	4.0%

*出典：院内医事レセプトデータ(平成27年5月～平成27年7月)

市町村別外来患者割合



3 市立病院の強みと課題

(1) 市立病院の強み

ア 松本市西部地域唯一の総合病院

松本二次医療圏の病院設置状況から、人口密集地帯である松本駅周辺に集中している病院群とは異なり、市立病院は、松本市西部地域に唯一設置された総合病院として特徴的であると言えます。

松本市西部地域で大規模災害が発生した場合、西部地域に設置されている当院は、災害医療の拠点となり得ます。また、松本駅周辺において大規模災害が発生した場合、駅周辺に集中している病院群も被害を受ける可能性が高いです。当院は松本駅から離れているため、被害を受ける可能性が低いと考えられます。従って、西部地域に設置されている当院は、災害医療におけるリスク分散の一助となります。

イ 松本市西部地域住民への医療提供

市立病院を受診する患者は、入院・外来ともに松本市波田・梓川・安曇等の西部地域や山形村・安曇野市・塩尻市・朝日村が多いです。また、救急搬送においても、松本市波田・梓川・安曇等の西部地域や朝日村、山形村で発生した救急搬送患者を多く受け入れています。

つまり、当院の診療圏は上記地域であり、これら地域住民にとって、当院は無くしてはならない存在です。従って、これら地域住民に対しての当院の担う役割は大きく、地域住民の将来的な医療需要に十分対応可能な体制・施設整備が必要です。

ウ 総合病院としての医療機能

市立病院は、地域の総合病院として、救急医療から在宅医療まで幅広く対応しています。特に、周産期・小児医療は、松本二次医療圏 DPC 病院における DPC 適用患者シェアから、地域の患者シェアを多く獲得しています。また、分娩件数についても、高い数値で推移しています。

また、高齢者の増加に伴い、高齢者に関する疾患の増加が予測されるが、当院は高齢者層の骨折等をはじめ、これら疾患への医療提供体制の充実を目指しています。

このように、当院は、地域住民に生涯にわたる医療の提供が可能です。

エ 予防及び健診事業

市立病院の位置する松本市は、「健康寿命延伸都市」の創造プロジェクトとして、個人の健康を増進する取組みや環境の見直しにより、市民の健康寿命を伸ばすまちづくりを目指しています。当院は、自治体病院として、行政との連携の下、上記プロジェクトを率先して推進し、地域住民の健康維持に努める必要があります。

(2) 市立病院の課題

ア 患者の確保

将来患者推計から、今後の患者数は高齢者の増加に伴い一旦増加するものの、人口減少により将来的には減少します。今後、市立病院が健全経営を行うためには、高齢者医療等、将来的な患者需要に対応した新たな診療機能の整備や既存機能の充実が必要です。

イ 病床規模・病棟構成の見直し

今後、今後の公立病院改革ガイドラインにおける病床利用率 70 パーセント未満の病院は、病床数の見直しが行われます。また、全国で実施されている地域医療構想による病床数の見直しがあります。更に、市立病院の平均在院日数は、概ね 13～14 日程度で推移しており、急性期病院の平均在院日数が短縮されることが予想されているため、平均在院日数の短縮に伴う病床利用率の低下が一層懸念されることから、病棟構成の見直しが必要です。

ウ 救急・災害医療提供体制

松本市西部地域唯一の総合病院として、松本市波田・梓川・安曇等の西部地域や朝日村、山形村で発生した救急搬送を多く受け入れ、二次救急輪番制の役割を担っていますが、人員不足等の課題があります。松本市西部地域唯一の総合病院として、上記地域における救急医療の中心的な役割を担うためには、将来的な人員体制の強化と二次救急全般に対応可能な施設整備が必要です。

また、松本市西部地域唯一の総合病院として、災害時にも継続して医療が提供出来るよう、建物の構造上の安全性の確保として、現行建築基準法のレベルを上回る高性能な耐震機能や BCP(事業継続計画)に基づいた医療機能の確保が必要です。

エ 施設の老朽化

昭和 60 年に建設されて以来、増築及び改築を繰り返してきた市立病院は、狭隘化や長距離動線等の非効率な施設状況及び設備関連の劣化等が課題となっています。

また、地域住民への安全・安心な医療提供を実現するためには、感染対策等に十分配慮した施設整備が必要です。

4 市立病院整備のあり方に関する将来構想(案)

(1) はじめに

松本市立病院の整備計画について、人口動向や医療需要を分析し、今後望まれる病院のあり方について研究するために、基礎調査を実施しました。この調査結果を踏まえ、今後の市立病院のあり方について、基本的な考え方を将来構想(案)としてまとめました。

(2) 病院整備の基本的な手法について

ア 移転改築による施設整備

現病院は、建設から30年が経過し、施設の老朽化・狭隘化への対応が必要になっており、度重なる増築により動線や構造など施設の機能としても、改修が必要な状況となっています。また、今後予想される医療需要の変化による病院機能の見直しに向け、施設上の対応も必要と考えられます。

これらの課題への対応策として、現病院を運営しながら現在地での増築・改修は困難であることから、新たな場所での施設建設が必須であり、移転改築による新病院建設に向け準備を進めます。

イ 建設用地の選定

基礎調査の結果から、当院から半径5キロメートル以内には他に病院が存在せず、松本市西部地域及びその周辺を主な医療圏とする唯一の総合病院として、地域の医療を守るという松本市立病院の役割がより明確になりました。

よって、新病院の建設地は、波田地区を中心とした西部地域を想定し、用地の選定を進めます。

(3) 基本計画の策定について

平成28年度中に県が策定することとなっている、2次医療圏単位で医療提供体制の見直しを図る「地域医療構想」との整合を図りながら、病院を運営する自治体においては、同じく28年度中に「公立病院改革プラン」を策定することが国から求められています。

これらの計画とすり合わせ、概ね2カ年以内に、以下の視点により詳細な基本計画を策定します。

ア 規模

新病院の整備にあたっては、将来の医療需要に合わせた適正な病床数・病棟などの整備が必要です。人口動態や高齢化等を見据え、最適な規模を検討します。

イ 医療機能

地域住民から求められる役割を十分果たせるよう、急性期医療を始めとした医療提供体制のあり方について検討します。

ウ 地域における役割

公立病院として、地域連携・在宅医療・災害医療・感染症対策等の役割を積極的に担う体制の整備を検討します。

ア) 大学病院等の高度急性期医療機関との病院間連携や、近隣のクリニックや福祉施設との連携を強化します。

イ) 高齢者の増加に伴う、在宅医療の需要増加を考慮した、在宅診療部門の充実を図ります。

ウ) 災害医療として、大規模災害時でもBCP（事業継続計画）に基づいた医療機能提供可能な施設とします。

エ 健診事業の充実

地域住民の健康維持という観点から、今後、予防医療領域に積極的に関与する必要があります。新病院では、健診センターの設置等、健診機能の強化を図り、本市が掲げる「健康寿命延伸都市・松本」の創造の一端を担い、産学官連携による事業展開も検討します。

オ 研修教育・情報提供体制の構築

地域の病院として、医学生や研修医への研修教育及び市民への医療に関する情報提供を積極的に行う必要があります。大学や短期大学などの学生や研修医を積極的に受け入れる研修機関を目指します。

また、地域住民の健康維持を目的とした市民公開講座等の開催を検討します。

カ 財政計画、人員計画等その他必要事項の検討

財源や経営シミュレーションなどの財政計画、機能に応じた人員配置計画など多面的に検討します。

(4) 基本計画の検討体制について

ア 検討委員会の設置

検討に当たっては、県・医師会・大学など関係団体及び住民からの意見を得るため、有識者で構成する検討委員会を設置します。

イ 検討委員会の役割

新病院の規模・機能や建設用地の選定など、課題に係る検討結果を市長に対して提言する、意見提言型の検討組織とします。

ウ 説明会、アンケート等の実施

検討状況に応じて、地域住民への説明会の開催やアンケート等により意見を聴取し、基本計画に反映させます。

(5) 当面想定されるスケジュール

項目	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
基本計画	→					
基本設計			→			
実施設計				→		
建設工事					→	
地域医療構想	→					
公立病院改革プラン	→					